

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072100177		
法人名	有限会社 ひかり		
事業所名	グループホーム ひかりの里		
所在地 (電話番号)	〒821-0012	福岡県嘉麻市上山田1094-84	(電話)0948-52-0101
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年6月23日	評価確定日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(21年 5月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 10.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費)10000円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(6月9日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 88 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡病院 / 俵歯科医院 / たちばな苑
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山々に囲まれた自然環境の中に、2ユニットのグループホーム「ひかりの里」がある。敷地内の菜園では季節ごとの野菜が栽培されており、入居者には収穫の喜びとなり、また食卓を飾っている。近隣の福祉施設へ祭りやバザーに出向いたり、ホームの行事に招いたり、また日々の散歩や買い物を通じて地域との関係づくりを育てている。家族の面会も多く、入居者と家族や馴染みの方々との関係や、一緒に過ごす時間を大切にしながら支援している。入居者一人ひとりの個性を重視し、日々の暮らしがその人らしく満足したものとなるよう、柔軟な対応が行なわれている。開設して7年目を迎え、課題も明確になってきており、今後の更なる取り組みが期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価以降、運営推進会議の定期開催に向けての取り組みや、介護計画に関する改善への取り組みが行なわれており、記録からも確認できる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員の意見を参考にしながら、管理者・ケアマネージャーによりまとめられている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、入居者家族・地域代表者・市町村担当者・民生委員・職員等の参加により、2ヶ月に1回開催している。入居者の参加も行われており、また家族間の交流を深める機会ともなっている。事業所の行事や活動報告が行われている。今後は議事録の作成が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見箱を玄関に設置している。家族から意見や要望等、話してもらい易い雰囲気づくりに努めており、面会時に直接意見を聴くことも多い。意見や要望には、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣にある福祉施設の祭りやバザーに出掛けたり、ホーム内の行事にも参加してもらう等の交流が行われている。美容院利用や買い物の機会を通じて、地域との交流を積極的に行なっている。今後、老人会のゲートボールにも参加予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として、「人としての尊厳や自分史を損なうことなく、最も自分らしさを発揮できる“和の提供”と“新しい家族”として“共に笑顔と活力”に満ちた生き生き成長を目指します」を掲げ、ホームとしても、より高い社会生活をおくることを支援するという方針を示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関脇や事務所・スタッフルームに理念を掲示し、月1度のミーティングや申し送りの際に意見交換がなされ、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣にある福祉施設との相互訪問により、交流が行われている。美容院利用や買い物の機会を通じて、地域との交流を積極的に行なっている。今後、老人会のゲートボールにも参加予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を運営推進会議で報告し、ミーティングでも介護計画の見直し等の改善に向けた取り組みが行われており、記録からも確認できる。また、運営推進会議の定期開催や、老人会との交流等、一つひとつ改善に向けて努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族・地域代表者・市町村担当者・民生委員・職員等の参加により、2ヶ月に1回開催している。入居者の参加も行われており、また家族間の交流を深める機会ともなっている。事業所の行事や活動報告が行われている。		昨年の評価での改善課題として、運営推進会議の定期開催について指摘があり、改善に向けての取り組みが行われている。今後は議題や検討内容を議事録として残し、一つひとつ積み上げていく事により、サービスの向上に具体的に活かしていくことが望まれる。

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の各担当者との相談や情報交換により、サービスの質の向上に取り組んでいる。介護相談員の訪問があり、入居者との面談を行なっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度を活用している入居者はいないが、折に触れ学習し、必要となった場合に活用できるように知識を深めている。		日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修に参加し、内部研修にて職員間の共有と、家族等への情報発信が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時間について柔軟に対応がなされており、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるように配慮が行われている。少なくとも月に1度は家族と園長が会う機会を設け、その際に近況報告も行っており、入居者の日々の暮らしぶり・健康状態・金銭管理について報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。家族から意見や要望等、話してもらい易い雰囲気づくりに努めており、面会時に直接意見を聴くことも多い。意見や要望には、迅速な対応に努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所全体として、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。職員の異動は行われておらず、また働きやすい環境づくりに配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用時には、性別や年齢などを理由として、採用の対象から排除することは無い。職員の意欲を大切に、働きやすく時間のゆとりがもてるように、職場の環境作りに配慮している。		

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	社会福祉協議会の勉強会に参加をしている。人権についての講習等がある時には、積極的に参加するように促し、人権に対する意識を高めるよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会や社会福祉協議会の勉強会に参加し、職員の育成を図っている。		限られた人員配置の中で、難しい面もあるかと思われるが、研修計画・研修報告を整備し、外部研修を通じて内部研修に繋げ、全職員での共有が望まれる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	2ヶ月に1回、グループホーム協議会や近隣のホームとの連携が行われている。地域の同業者との交流により、情報交換や勉強会などが行われており、質の向上に向けて取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に訪問や面談を行い、見学や体験利用も受け入れており、グループホームの内容などを説明している。本人や家族と十分に相談しながら事前の準備を行い、不安や混乱なく利用に繋がるように配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	センター方式を一部採用し、生活暦をアセスメントし、日常生活の得意とする分野を抽出している。入居者ができる事はなるべくしてもらい、役割を持ってもらうよう働きかけたり、畑を耕し一緒に収穫する等、共同作業を行なう中で学ぶことも多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人の生活暦や生活習慣、思いや意向を、センター方式を活用しながらアセスメントを行い、把握することに努めている。今後は日々の関わりの中での職員の気づきをアセスメントに活用し、プライバシーに配慮しながら更に入居者の本人像の理解に向けて、取り組みが期待される。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の意見を大切にしながら、入居者の状態・状況の変化をアセスメントし、職員間で話し合いが行われている。家族の面会時に意見や希望を聞き、入居者からのニーズをケアプランに反映させている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	長期目標・短期目標を設定し、3ヶ月に1回計画を見直している。毎月モニタリングを行い、短期目標が達成できているか確認している。状況に変化があった場合には、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	かかりつけ医への通院や理美容、買い物の支援を行っている。家族の月1回以上の面会時などに、必要に応じて送迎する事で、家族との相談しやすい馴染みの関係づくりを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人や家族の希望を重視し、入居前に本人が受診していたかかりつけ病院への受診を支援している。医療機関と連携をとるように努め、入居者によっては往診となる場合もある。継続して受診し、入居者の症状や状態により適切な治療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方について、医師や家族、職員間の話し合いが行なわれており、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報の取り扱いには十分に注意し、保管や管理を行っている。契約書・運営規定に秘密保持を掲げ、入居者に対して尊敬の心を持ち、言葉遣いに気をつけ話すように心がけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日の流れはあるが、個別の生活リズムに沿った過ごし方ができるように、気分・体調に合わせた支援に努めている。散歩やレクリエーションなど、一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり楽しく過ごしていただけるよう柔軟な対応がなされている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者一人ひとりの個別性を大切に、希望や状態にあわせて食事の準備や後片付けに参加してもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	風呂は毎日、入居者の希望時に入浴できるようにしている。入浴を拒否する方には無理強いせず、随時、シャワー浴や清拭、部分清拭等で清潔が保てるように柔軟な対応を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	個々の能力に合わせて、役割をもってもらうように支援し、掃除などしてもらったり、畑の世話を楽しみにしてもらっている。アセスメントにより一人ひとりの得意分野を把握し、力を発揮できる場面づくりを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望に応じて、天気の良い日は散歩に出掛けたり、ホームの庭で日光浴をしたりしている。レクリエーションで外出したり、近隣の福祉施設の行事に参加する等、季節の機会あるごとに外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	基本的には、日中鍵をかけないケアを実践している。その日の状況に応じて対応する場合もある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年1回は避難訓練を行い、消防署にも働きかけ災害に備えている。消防訓練の計画やマニュアルの整備、訓練の実施記録等の書類の整備がなされていない。		地域・消防等の協力により、昼夜を想定した定期的な避難訓練実施が求められており、マニュアルや記録の整備と共に、早急な取り組みが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者一人ひとりの食事量や水分摂取量の状況を記録に残し、職員間で共有している。摂取量の少ない方には個々に応じて摂取の工夫や働きかけを行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	窓には防音ガラスや遮光フィルムを採用して、心地よい環境づくりに配慮している。壁には入居者と職員の手作り作品が飾られており、ベランダにはベンチもあり、日当たりが良く日光浴など、くつろげる雰囲気作りをしている。玄関・室内各所に季節の花や植木が飾られており、季節感		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居時に、本人・家族の希望に合わせて、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、落ち着ける環境づくりを支援している。生活やプライバシーに配慮し、本人が居心地よく過ごせる工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			